

パーティショニングと
ラブルシューティング
ガイド
Magic xpa 3.x



OUTPERFORM THE FUTURE™

本マニュアルに記載の内容は、将来予告なしに変更することがあります。これらの情報について MSE (Magic Software Enterprises Ltd.) および MSJ (Magic Software Japan K.K.) は、いかなる責任も負いません。

本マニュアルの内容につきましては、万全を期して作成していますが、万一誤りや不正確な記述があったとしても、MSE および MSJ はいかなる責任、債務も負いません。

MSE および MSJ は、この製品の商業価値や特定の用途に対する適合性の保証を含め、この製品に関する明示的、あるいは黙示的な保証は一切していません。

本マニュアルに記載のソフトウェアは、製品の使用許諾契約書に記載の条件に同意をされたライセンス所有者に対してのみ供給されるものです。同ライセンスの許可する条件のもとでのみ、使用または複製することが許されます。

当該ライセンスが特に許可している場合を除いては、いかなる媒体へも複製することはできません。ライセンス所有者自身の個人使用目的で行う場合を除き、MSE または MSJ の書面による事前の許可なしでは、いかなる条件下でも、本マニュアルのいかなる部分も、電子的、機械的、撮影、録音、その他のいかなる手段によっても、コピー、検索システムへの記憶、電送を行うことはできません。

サードパーティ各社商標の引用は、MSE および MSJ の製品に対するコンパチビリティに関しての情報提供のみを目的としてなされるものです。

本マニュアルにおいて、説明のためにサンプルとして引用されている会社名、製品名、住所、人物は、特に断り書きのないかぎり、すべて架空のものであり、実在のものについて言及するものではありません。

Magic xpa は Magic Software Enterprises Ltd. のイスラエルその他の国での商標または登録商標です。

Magic xpa Enterprise Studio、Magic xpa Enterprise Client、Magic xpa Enterprise Server および Magic xpa RIA Server は Magic Software Japan K.K. の商標です。

Pervasive.SQL® は Pervasive Software, Inc. の商標です。

IBM®, iSeries™, xSeries®, DB2® および WebSphere® は、IBM Corporation の商標または登録商標です。

Microsoft® および FrontPage® は、Microsoft Corporation の登録商標です。また、Windows™, WindowsNT™ および ActiveX™ は Microsoft Corporation の商標です。

Oracle® は Oracle Corporation の登録商標です。

Linux® は Linus Torvalds の登録商標です。

GLOBETrotter® と FLEXlm® は、Macrovision Corporation の登録商標です。

Interstage® は、富士通株式会社の登録商標です。

JBoss™ は、JBoss Inc. の商標です。

Systinet™ は、Hewlett-Packard Development Company の商標です。

一般に、会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

MSE および MSJ は、本製品の使用またはその使用によってもたらされる結果に関する保証や告知は一切していません。この製品のもたらす結果およびパフォーマンスに関する危険性は、すべてユーザーが責任を負うものとします。

この製品を使用した結果、または使用不可能な結果生じた間接的、偶発的、副次的な損害（営利損失、業務中断、業務情報の損失などの損害も含む）に関し、事前に損害の可能性が勧告されていた場合であっても、MSE および MSJ、その管理者、役員、従業員、代理人は、いかなる場合にも一切責任を負いません。

Copyright 2012 Magic Software Enterprises Ltd. and Magic Software Japan K.K. All rights reserved.

2012年7月30日

概要	1
用語	1
Magic xpa のパーティショニングモジュール	1
ポート	2
ホストの名前解決	2
コネクションの処理	2
タイムアウト	2
ログファイルの設定	3
付録 I Magic xpa の情報とエラーコード	4
情報	4
エラー	6
付録 II - DB エラー	15
付録 III - Winsock エラー	16
付録 IV - テストケース	18
-144: Low-level connection reset	18
-197: Context Not Found	18

1 概要

この文書は、ある状況のトラブルシューティングを行い、Magic コンポーネントがどのように互にやり取りするかについてより良い理解を提供することを支援するためのものです。

説明する内容は以下の通りです。

- Magic xpa のパーティショニングモジュールはどのようにやり取りするか
- ポート番号
- ホスト名の名前解決
- コネクションの処理
- タイムアウト
- ログファイルの設定

また、この文書にはリクエストのエラーコードの意味が説明されており、トラブル状況を解決するためのガイドラインを提供します。

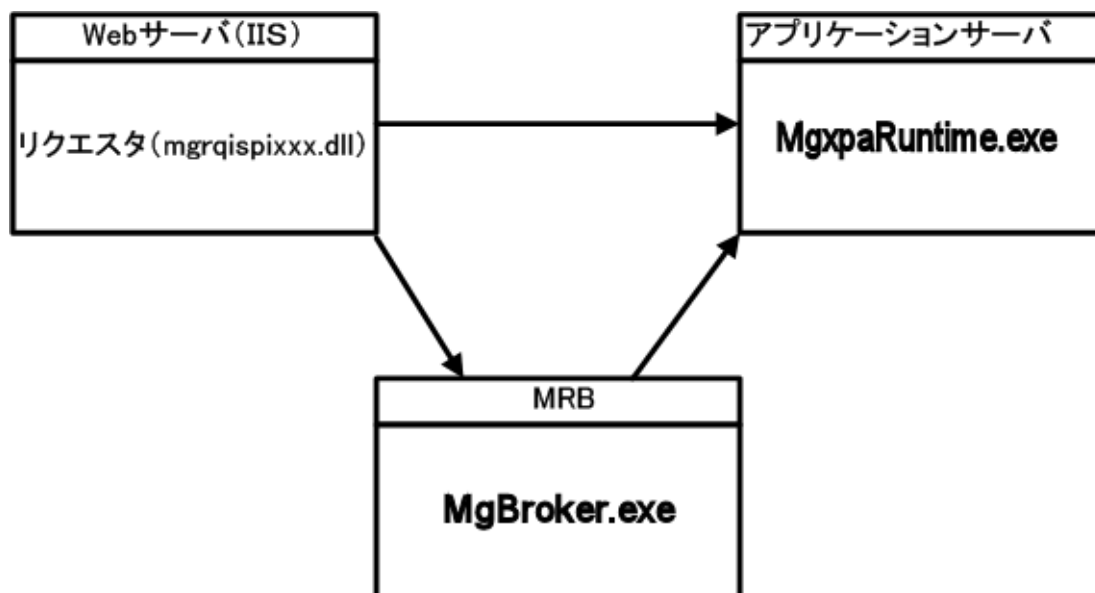
2 用語

TCP/IP スタックは、OS レベルで TCP/IP ソフトウェアを参照し、それ自身の設定やレジストリ、および環境設定ファイルを持っています。Windows プラットフォーム上では、TCP/IP スタックは「Winsock」として通常知られています。TCP/IP スタックは、Microsoft に加えて複数のベンダが提供しています。

TCP/IP スタックから返るエラーは、「付録 I Magic xpa の情報とエラーコード」に記述されているパーティショニングエラーに割り当てられています。

3 Magic xpa のパーティショニングモジュール

典型的な組み合わせは、1つのMRBと1つ以上のアプリケーションサーバ、およびインターネットリクエストから構成されます。これを図示すると次のようになります。



リクエストが Web サーバで用意されると、動作している Magic エンジンを見つけるために、リクエストは MRB にポーリングを出します。MRB は、処理中でないエンジンを見つけ、どのエンジンが処理可能かをリクエストに知らせます。

リクエストが同期モードの場合、リクエストは直接 Magic エンジンとやり取りを行い、MRB を経由しません。同期モードでない場合、MRB が直接 Magic エンジンとやり取りを行うため、リクエストを経由しなくなります。

コンポーネントの各 INI ファイルは、コンポーネントがお互いに通信し合うためのポートを定義します。

3.1 ポート

MRB は 1 つのポート (MGRB.INI の中の BrokerPort) を使用します。

アプリケーションサーバは、さらに、MRB が処理する「標準の」リクエスト (MRB がアプリケーションサーバに渡すリクエスト) のために 1 つのポートを使用します。

しかし、アプリケーションサーバのフォルダーに存在する Mgreq.ini の中の以下に示す指定がある場合、アプリケーションサーバは、J2EE リクエスト (EJB はその中で直接アプリケーションサーバと対話します。) のために別のポートを使用します。

```
[MAGIC_MESSAGING_GATEWAYS]
MGRSVR05 = , , , MaxThreads=10%
```

この場合、アプリケーションサーバは、EJB (デフォルト・ポートは 1500 以降) との統合のために ([MAGIC_COMMS]TCP/IP デフォルトは 1500-2000 です。) 許可された範囲の中で最初に空いているポートを使用します。

3.2 ホストの名前解決

ここでは、TCP/IP での名前解決について説明します。

Magic xpa の分割アーキテクチャーは、異なるコンピュータに異なるモジュール (MRB、クライアント、アプリケーションサーバ) を配置することを可能にしています。この目的のために、各コンピュータは、アクセスするコンピュータのホスト名を認識する必要があります。ページ 5 / 25

例えば、MRB が 1 台のコンピュータ (SRVR_1) にあり、異なる 2 つのコンピュータ (SRVR_2 および SRVR_3) にアプリケーションサーバがあります。アプリケーションサーバは MRB にホスト名を認識してもらわなければなりません。この名前は、クライアントが同期リクエストを送る時に MRB に渡されます。従って、各クライアントは、SRVR_1、SRVR_2 および SRVR_3 をの名前解決を行っていないければいけません。

この目的を達成する最良の方法は DNS (Domain Name Service) あるいは DHCP です。hosts ファイルを使用することもできますが、実際のネットワーク環境に合うように常に最新の状態にしておく必要があります。

3.3 コネクションの処理

上記の図において、矢印は、接続されているの両側が動作しており、機能して残っている接続を表しています。OS の「netstat」コマンドは、TCP/IP 状態図の異なるフェーズ間のこれらの接続を参照することができます。

ISAPI などのリクエストは、最初 MRB に、そして各アプリケーションサーバに接続します。これらの接続は、リクエストまたはパートナ (MRB やアプリケーションサーバ) まで ESTABLISHED を保持し、閉鎖されます。

リクエストが、リクエストを MRB やアプリケーションサーバに送る必要があります、すべての確立された接続がすでに使用されている場合、リクエストは新しい接続を開き、上記で説明されているように、その ESTABLISHED を保持します。これは、確立された接続数が、最大値に達するまで徐々に増えていくことを意味し、既存の接続は、新しい接続を開くことなくすべてのリクエストを提供します。各アプリケーションサーバから MRB までの接続は 1 つしかありません。

IIS が再起動する時のように、もしリクエストが停止された場合、リクエストは MRB と接続されたすべてのアプリケーションサーバの両方の接続を徐々に閉じます。そしてリクエストは新しい接続を、以前に説明された手順で正確に開き始めます。

MRB またはアプリケーションサーバが、それを知っているリクエストなしで閉鎖される場合、CLOSE_WAIT ステータスメッセージがリクエスト側で表示され、FIN_WAIT_2 メッセージは MRB またはアプリケーションサーバ側に表示されます。

この動作を制御するために mgreq.ini ファイル内の CloseWaitTimeout パラメータを使用することができます。

3.4 タイムアウト

Magic xpa は、INI ファイルで定義することができる様々なタイムアウト設定を提供します。これはトラブルシューティングで役に立つ場合があります。タイムアウトの詳細については、リファレンスヘルプを参照してください。

MGREQ.INI / 使用するモジュール	リクエスト	MRB	アプリケーションサーバ
BrokerTimeout	○		
RequesterTimeout	○		
CommTimeout	○	○	○
ServerTimeout		○	
CloseWaitTimeout	○		

MGREQ.INI / 使用するモジュール	リクエスタ	MRB	アプリケーションサーバ
ShutdownTimeout		○	

3.5 ログファイルの設定

ログファイルには3つのタイプがあります。

- Mgreg.ini で設定……TCP/IP、スレッド、イベントなどの下位レベルの動作に対応しています。詳細は、リファレンスヘルプ (Mgreg.ini の説明) を参照してください。
- Mgrb.ini で設定……MRB の上位レベルの動作 (初期化、リクエストの受信、アプリケーションサーバの認識、アプリケーションサーバへのリクエストの送信など) に対応しています。リクエストが MRB によって受け付けられたり、処理が終了したりしたことを確認する場合に有効です。詳細は、リファレンスヘルプ (Mgrb.ini の説明) を参照してください。
- Mrb_event.log ……MRB で作成され、INI ファイルとは関連せず、MRB とアプリケーションサーバなどの開始や終了などの重要な MRB の動作を記録します。

4 付録 I Magic xpa の情報とエラーコード

4.1 情報

エラー #	ニーモニック	対応
0	RQ_OK	
-1	RQ_INF_TERMINATE	
-2	RQ_INF_TERMINATE_THREAD	スレッド自身は、終了されます。
-3	RQ_INF_RECONNECT_MAIN	
-4	RQ_INF_RETRY	<p>内部ステータスコード</p> <ul style="list-style-type: none"> リクエストに対して：MRB がリクエストにリトライを指示した場合 エンジンに対して：エンジンが MRB との接続をリトライした場合 MRB に対して：非同期リクエスト処理をリトライする場合 <p>すべての場合、このステータスコードに別のエラーステータスコード続いていない限り、無視して構いません。</p>
-5	RQ_INF_LOG_ACTIVE	
-6	RQ_INF_ALREADY_INITIALIZED	
-10	RQGNRC_INF_NOWAIT	
-11	RQGNRC_INF_NO_RESULT	<p>リモートプログラムから出力が返らない。</p> <p>リクエストによって実行されるプログラムがリクエストに何も返さない場合は、このステータスが返ります。</p> <p>プログラムは、以下の方法のうちのどれか一つを使用して内容を返します。</p> <p>(1) 「リクエスト」タイプで [フォーム出力] 処理コマンドを実行</p> <p>(2) File2Req または Blob2Req 関数を呼び出す</p>
-32	RQMRG_INF_NO_REQUEST	アプリケーションサーバの内部ステータスコードです。
-33	RQMRG_INF_IN_PROGRESS	
-34	RQMRG_INF_CLOSE_APPSERV	
-35	RQMRG_INF_WARNING_ERRS_ON_INIT	
-40	RQMRB_INF_NO_PND_REQ	MRB の内部ステータスコードです。
-41	RQMRB_INF_APP_NOT_FOUND	
-42	RQMRB_INF_APP_IN_USE	
-43	RQMRB_INF_RT_NOT_TERM	
-44	RQMRB_INF_ACK_SENT	
-45	RQMRB_INF_CNCT_MAIN_REFUSED	
-46	RQMRB_INF_CNCT_MAIN_NOT_RSPND	
-47	RQMRB_INF_LICENSES_EXCEEDED	
-50	MM_INF_LAST_BIGGER-	メモリーテーブルの低レベルのステータスコードです。これは MRB リソース管理のための基礎となります。
-51	MM_INF_LAST_SMALLER	
-52	MM_INF_NO_REC	
-53	MM_INF_EOF	
-54	MM_INF_FILTER_LIMIT	

エラー #	ニーマニック	対応
-60	RQTCP_INF_TIMEOUT	<p>いくつかの下位レベルの状態です。これらの状態の各1つでは、それが異なって扱われます。</p> <p>例えば、</p> <p>1, リクエスタが MRB やサポートされていないアプリケーションにリクエストを送信した場合（アプリケーションが存在しない時は、-103 アプリケーションがビジーの時は-104 が返ります）MRB は、Ack で応答しますリクエスタはアプリケーションサーバが利用可能になるまで待ち続けます（mgreq.ini の中の「BrokerTimeout」の値や magic.ini の [サーバ] テーブルの指定に基づいて）。タイムアウトを超えてもアプリケーションサーバが利用可能にならない場合は、MRB は、TCP/IP レイヤ[※]から -60 を受け取ります。この場合、-103 か -104 のステータスコードに変換されます。</p> <p>2, リクエスタは MRB にリクエストを送り、MRB からの応答を取得しません。この場合は、-105 を返します。</p> <p>3, リクエスタはアプリケーションサーバを取得すると、アプリケーションサーバにリクエストを送り、応答を待ちます。「request timeout」が設定されている場合、アプリケーションサーバがリクエストを終了しないと、リクエストは、TCP/IP レイヤから -60 を受け取ります。これは、-110(REQUEST-TIMEOUT) というステータスコードに変換されます</p>

※ TCP/IP スタックは OS レベルで TCP/IP ソフトウェアを参照しており、独自の設定、レジストリと環境ファイルがあります。Windows プラットホームでは、TCP/IP スタックは通常 Winsock として知られています。TCP/IP スタックには、Microsoft に加え、いくつかのベンダがあります。TCP/IP スタックから返されるエラーは、Magic xpa のパーティショニングエラーにマップされます。

4.2 エラー

エラー #	ニモニック	対応
-102	RQGNRC_ERR_CNCT_REFUSED_MRB	MRB で使用されるホスト名またはポートが不適当な場合、このエラーが発生します。MRB の接続先のポートが適当かどうか、接続が正常かどうかを確認してください。
-103	RQGNRC_ERR_APP_NOT_FOUND	<p>以下のどれかの要因が発生した場合、このエラーが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • MRB に登録されるアプリケーションサーバが、アプリケーションをサポートしていない場合 • Mgrb.ini ファイルの Appl=entry が定義され、選択された MRB に登録されるアプリケーションのリスト内に実行させたいアプリケーションが定義されていない場合。 <p>アプリケーションサーバの状態を確認するには、MRB モニターを使用してください。</p> <p>対応方法：</p> <ul style="list-style-type: none"> • アプリケーションサーバのうちの少なくとも 1 つが Magic.ini の ActivateRequestServer が Y に設定されていることを確認してください。 • Mgrb.ini の MessagingServer が正しく設定されていることを確認してください。 • MRB をサービスとして実行させる場合は、マッピングドライブを使用することができません。標準的な UNC だけが指定可能です。標準的な UNC を使用して設定されることを確認してください。 <p>このステータスコードは Mgrb.ini ファイルの BrokerTimeout キーワード、または、Magic xpa が使用する MRB の [サーバ] 特性の [タイムアウト] 特性によって制御されます。</p> <p>このタイムアウト関連のエラーに対応するには：</p> <ul style="list-style-type: none"> • MRB がインストールされているディレクトリ上の Mgrb.ini ファイルの [APPLICATIONS_LIST] セクションの Magic エンジンの起動数 (<MRB の初期化時に実行される回数> または、<起動されるエンジンの最大数>) を増やしてください。Mgrb.ini ファイルを修正した後で、MRB を再起動する必要があります。 • インターネットリクエストに対応する Scripts ディレクトリ内の Mgrb.ini ファイルか、[コールリモート] 処理コマンドを実行する場合に参照する Magic.ini ファイルを修正します。Broker Timeout の値を 10 秒より長く設定してください。(たとえば 300 秒 (5 分))

エラー#	ニーマニック	対応
-104	RQGNRC_ERR_APP_IN_USE	<p>以下のどれかの要因が発生した場合、このエラーが表示されません。</p> <ul style="list-style-type: none"> •MRB のフィルタ制限をオーバーしました。ただし、アプリケーションサーバはビジーになっていません。 •Magic エンジンは、(例えば、RqRtBlock() 関数を使用することにより) ブロックされています。MRB モニタでエンジンの状態をチェックすることにより、確認することができます。 <p>このステータスコードは、Mgreq.ini の「BrokerTimeout」キーワードの値、または、Magic xpa の [サーバ] 特性の [タイムアウト] 特性で制御されます。</p> <p>このタイムアウトを解決するには：</p> <ul style="list-style-type: none"> •MRB がインストールされているディレクトリ上の Mgrb.ini ファイルの [APPLICATIONS_LIST] セクションの Magic エンジンの起動数 (<MRB の初期化時に実行される回数> または、<起動されるエンジンの最大数>) を増やしてください。Mgrb.ini ファイルを修正した後で、MRB を再起動する必要があります。 •インターネットリクエストに対応する Scripts ディレクトリ内の Mgreq.ini ファイルか、[コールリモート] 処理コマンドを実行する場合に参照する Magic.ini ファイルを修正します。Broker Timeout の値を 10 秒より長く設定してください。(たとえば 300 秒 (5 分))
-105	RQGNRC_ERR_MRB_NOT_RSPND	<p>リクエスタによって必要なアプリケーションを実行させるためのサーバエンジンが利用できない場合、MRB はリクエスタに対してすぐに応答する必要があります。この場合、MRB は承認メッセージ (ACK) で応答する必要があります。指定された、ブローカのタイムアウト値に基づいてリクエスタを待ち続けなければなりません。MRB が時間内に応答しない場合、リクエスタは汎用メッセージレイヤ (Mgrqgnrc.dll) からステータスコード (-105) のメッセージを受け取ります。</p> <p>CPU またはメモリ上の観点から MRB のパフォーマンスを改善させるには：</p> <ul style="list-style-type: none"> •リクエスタと MRB のために Mgreq.ini の CommTimeout の値を増やしてください。 •別のサーバ PC に MRB をインストールしてください。
-106	RQGNRC_ERR_RT_NOT_RSPND	<p>リクエスタは、リクエストを、MRB によって割り当てられたエンジンに送ることができませんでした。</p> <p>エンジンが動作していることを確認してください (MRB のステータスウィンドウに表示された PID をタスクマネージャで確認してください)。</p> <p>問題の原因を切り分けるため、コマンドラインリクエスタを使用してこのエンジンを起動してみてください (接続はコマンドラインリクエスタの各リクエスト用に作成/破棄されます)。</p>

エラー #	ニモニック	対応
-107	RQGNRC_ERR_CNCT_RESET	<p>アプリケーションサーバによって接続がリセットされました。このメッセージは以下の場合に表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • アプリケーションサーバは、リクエスト実行の間にアボートされた場合 • 接続が、ネットワーク接続の問題のためリセットされた場合 <p>-105 と -144 のステータスコードを参照してください。</p> <p>エンジンが動作していることを確認してください (MRB のステータスウィンドウに表示された PID をタスクマネージャで確認してください)。</p> <p>問題の原因を切り分けるため、コマンドラインリクエストを使用してこのエンジンを起動してみてください。(接続はコマンドラインリクエストの各リクエスト用に作成/破棄されません。)</p>
-108	RQGNRC_ERR_INVALID_REQ_HDL	<p>「リクエスト API」を使用している場合は、間違ったパラメータが渡されている可能性があります。</p>
-109	RQGNRC_ERR_CNCT_REFUSED_RT	<p>リクエストとアプリケーションサーバ間の通信上の問題です。クライアントとサーバ PC 間のファイヤウォールの設定や、ホスト名の名前解決などを確認してください。</p> <p>Broker モニタを使用して、アプリケーションサーバの状態を参照することができます。Ping を使用して割り当てられたアプリケーションサーバのホスト名と IP アドレスを確認できます。</p> <p>エンジンが動作していることを確認してください (MRB のステータスウィンドウに表示された PID をタスクマネージャで確認してください)。</p> <p>問題の原因を切り分けるため、コマンドラインリクエストを使用してこのエンジンを起動してみてください。(接続はコマンドラインリクエストの各リクエスト用に作成/破棄されません。)</p>
-110	RQGNRC_ERR_REQUEST_TIMEOUT	<p>タスクの実行が Request Timeout で指定された時間内に終了しませんでした。Request Timeout キーワード (インターネットリクエストやコマンドラインリクエストの場合は、Mgreq.ini、[コールリモート] 処理コマンドの場合は、Magic.ini で設定) の値を増やしてみてください。</p>
-111	RQGNRC_ERR_NOT_MRB	<p>リクエストが、MRB ではない TCP/IP サーバと接続しようとしていました。</p>
-112	RQGNRC_WRN_ALT_MRB	<p>古いステータスコードです。</p>
-113	RQGNRC_ERR_APPNAME_REQUIRED	<p>[コールリモート] 処理コマンドでアプリケーション名が指定されませんでした。</p>
-114	RQGNRC_ERR_PRGNAME_REQUIRED	<p>[コールリモート] 処理コマンドでプログラム名が指定されませんでした。</p>
-117	RQGNRC_ERR_RMC_DISABLED_FOR_J2EE	<p>J2EE タイプサーバは、EJB からの呼び出しのみ受け付けることができます。異なるリクエストによる呼び出しが行われた場合、このエラーが発生します。</p> <p>Mgreq.ini ファイルに Gateway=5 を設定することで、コマンドラインや Web リクエストからの呼び出しを受け付けなくなります。</p>
-118	RQGNRC_ERR_TIME_STAMP	<p>リクエストは、別のリクエスト用の応答を MRB から受け取りました。これは、ログファイルには見つからないような重大なエラーです。</p> <p>「BrokerTimeout」の値を増やしてみてください。</p>

エラー#	エラーメッセージ	対応
-119	ERR_LICENSES_EXCEEDED	<p>アプリケーションをサポートしているすべてのアプリケーションサーバが利用可能なライセンス数を超過してチェックアウト使用とした場合に、このエラーメッセージが表示されます。その結果、現在のリクエストは処理されません。</p> <p>MRB モニターを開いて、ピーク値と最大値が同じ値で表示されていることで、それを確認することができます。</p> <p>注：チェックアウト値は、動作環境で定義されたライセンスと並行スレッドの最大値、並行ユーザ数の最大値によって決定されます。このステータスコードは Mgreg.ini ファイルの BrokerTimeout キーワード、または、Magic xpa が使用する MRB の [サーバ] 特性の [タイムアウト] 特性によって制御されます。</p> <p>このタイムアウトを解決するには：</p> <ul style="list-style-type: none"> • MRB がインストールされているディレクトリ上の Mgrb.ini ファイルの [APPLICATIONS_LIST] セクションの Magic エンジンの起動数 (<MRB の初期化時に実行される回数> または、<起動されるエンジンの最大数>) を増やしてください。Mgrb.ini ファイルを修正した後で、MRB を再起動する必要があります。 • インターネットリクエストに対応する Scripts ディレクトリ内の Mgreg.ini ファイルか、[コールリモート] 処理コマンドを実行する場合に参照する Magic.ini ファイルを修正します。Broker Timeout の値を 10 秒より長く設定してください。(たとえば 300 秒 (5分))
-128	RQMRI_ERR_APP_REJECTED	<p>どのアプリケーションも開いていなかったり、どのコンテキストもそのエンジンの中に存在していなかった場合に、2 つ以上のリクエストによって同じエンジン内の異なるアプリケーションを開くことを試みた場合に発生します。</p> <p>リクエストをリトライしてください。</p> <p>J2EE 環境で実行する場合、EJB は、CommunicationTimeout で指定された時間でアプリケーションサーバと接続し続けます。EJB が接続に失敗した場合、「ApplicationBusy」の例外をクライアントに送ります。</p>
-130	RQMRI_ERR_APP_OPEN_FAIL	<p>サーバエンジンはアプリケーションを開くことができませんでした。アプリケーションをローカルで (例えばオンラインモード) 開くことができるかどうかを確認してください。</p>
-131	RQMRI_ERR_BAD_PRG	<p>アプリケーションサーバは要求されたプログラムを見つけることができませんでした。</p> <ul style="list-style-type: none"> • プログラムの公開名を確認してください。 • サービスとして MRB を使用する場合、マッピングドライブを使用することができません。標準的な UNC だけが利用可能です。標準の UNC を使用して設定されることを確認してください。

エラー #	メッセージ	対応
-133	RQMRI_ERR_ACCESS_DENIED	<p>アプリケーションによってアクセスが拒否されました。このエラーは以下の場合に発生します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 不正なユーザ ID またはパスワードがアプリケーションサーバに渡った場合 Magic xpa リクエストは、アプリケーションのユーザ管理ファイル (通常は、usr_std.jpn) に存在しないユーザ ID とパスワードを送ります。Mgreq.ini ファイルからユーザ ID とパスワード・オプションを使用したい場合、このユーザをアプリケーションやアプリケーションのユーザ定義ファイルに定義しておかなければなりません。 Mgreq.ini ファイルを変更した後は、Web サーバを再起動する必要があります。 ユーザにプログラムを実行する権利がない場合 この場合、アプリケーションに対するアクセス権がないユーザ ID、またはユーザ ID を指定しないでアプリケーションにアクセスしようとしています。Web ブラウザーの URL 行や HTML フォームの Hidden 項目で '&APPNAME=' の前に 'USERNAME= {定義済みユーザ ID} &PASSWORD= {定義済みのパスワード}' を指定してアクセスしなければなりません。 「実行権利」が呼び出されたプログラムで必要な場合、同じ設定が必要です。 HTML フォームの項目として、Magic xpa で予約された名前を使用しています。 username と password (大文字/小文字やその組み合わせ)、Magic xpa の予約語です。そして、データと内容の内部操作を行う上で Magic xpa で識別されます。 HTML フォーム上の項目 (テキスト項目または Hidden 項目) としてこれらの予約語が使用されると、Magic xpa はこれらをユーザ ID やパスワードとして読み込み、ユーザ定義ファイルの内容と合っていないものとして対応します。 この確認が失敗する (ユーザが存在しなかったり、パスワードが間違っているとして) 場合、確認が正常でもユーザにアプリケーションまたはプログラムに対するアクセス権がない場合、結果としてコード 133 が返ります。
-134	RQMRI_ERR_LIMITED_LICENSE_PART	使用しているライセンスがパーティショニング機能のみ有効です。
-135	RQMRI_ERR_LIMITED_LICENSE_HTTP	使用しているライセンスがインターネット機能のみ有効です。
-136	RQMRI_ERR_LIMITED_LICENSE_CS	<p>サーバエンジンのリクエストカウントが最大値に達している状態でリクエストが送られました。</p> <p>エンタープライズサーバのライセンス以外を使用している場合、2000 リクエストまでしか受け付けられません。</p>
-137	RQMRI_ERR_REQ_REJECTED	実行モードから開発モードへの切り替えの際にタイミング問題が発生し、そのため、サーバエンジンによる要求の実行ができなかった場合、このエラーが発生します。

エラー #	ニーマニク	対応
-138	RQMRI_ERR_RT_ERROR_MSG	<p>アプリケーションサーバ内のプログラムの実行中に、プログラムが適切に終了しませんでした。例えば、実行がアボートされたり、その他のアボート条件による確認エラーが発生した場合などです。</p> <p>実行プログラムが処理に失敗した場合、これらのエラーメッセージはアプリケーションサーバによって送られ、リクエストに送り返されます。</p> <p>実行プログラムがエラーメッセージにもかかわらず処理が成功した場合、エラーメッセージが無効となってプログラムの出力結果が返ります。</p> <p>インターネットリクエストの場合、エラーメッセージはリモートの HTTP ブラウザに送られます。</p> <p>コマンドラインリクエストの場合、エラーメッセージはコンソールに表示されます。</p> <p>Ver9 の Magic エンジンの場合、このエラーメッセージは表示されません。F8 を押して、実行プログラムを構文チェックしてください。</p> <p>J2EE 環境で実行する場合、EJB はアボートしたプログラムからのエラーメッセージを、EJB クライアントに送った例外に含めます。</p> <p>F8 を押下して実行されるプログラムとその子タスクをチェックしてください。</p>
-139	RQMRI_ERR_THREAD_ABORTED	<p>プログラム実行中に、プログラムが異常終了しました。</p> <p>Magic.ini の [MAGIC_SPECIALS] セクション内の ExceptionMessageBoxDisplay のフラグを「Yes」に設定し、BugTrapper などを使用して不具合を見つけてください。</p>
-140	RQTCP_ERR_NOT_INITIALIZED	Winsock エラーの 10093 を参照してください。
-142	RQTCP_ERR_BIND_FAIL	サーバモジュール (MRB やアプリケーションサーバ) はローカルアドレスへのバインドに失敗しました。このアドレスは既に使用されているかもしれません。
-143	RQTCP_ERR_CNCT_REFUSED	クライアントモジュールから同レベルのクライアントへの接続が拒否されました。これはどのような 2 つのモジュール間でも発生する可能性があります。(例: リクエストから MRB やアプリケーションサーバまたは、アプリケーションサーバから MRB)
-144	RQTCP_ERR_CNCT_RESET	確立された接続はリセットされました。接続はすでに無効で、使用できません。Winsock エラー #10054 やテストケース #1 を参照してください。
-146	RQTCP_ERR_BIND_HOST_NOT_FOUND	<p>サーバモジュールは、名前解決の問題でローカルアドレスにバインドすることができません。例えば、Magic.ini/Communication/tcpip で /LocalHost で指定されている場合など。</p> <p>Mgreql.ini ファイルの中のローカルホストの指定や、Magic.ini ファイルでの TCP/IP パラメータ内の /LocalHost は無効なホスト名となります。(例えば TCP/IP = 2、30、1500-2000 / LocalHost=myserver)</p>

エラー #	ニモニック	対応
-147	RQTCP_ERR_CNCT_HOST_NOT_FOUND	<p>不明のホスト。</p> <p>クライアントモジュールは、名前解決ができないためサーバーモジュールとの接続ができませんでした。1 台の PC 上のリクエストが MRB からアプリケーションサーバのアドレスを受け取る際に、このエラーが発生する可能性があり、アプリケーションサーバは、ホスト名が MRB に認識されているがリクエストには認識されていない場合が考えられます。DNS や DHCP を使用することで通常この問題を解決することができます。シナリオを防止します。</p> <p>このエラーは、ERR-BIND_HOST_NOT_FOUND に似ています。リクエストは、不明の MRB やアプリケーションサーバと接続することはできません。Mgreq.ini ファイル内の MessagingServer キーワードを確認してください。MRB アドレスには、88.0.184/2001 などのインターネットアドレスが含まれていなければなりません。</p>
-148	RQTCP_ERR_CNCT_CLOSED	<p>接続は、他のクライアントによって突然クローズされました。mrb_event.log には、以下のフォーマットでエラーが記録されます：</p> <p>377 DD/MM/YYYY 8:19:50,23562 TCP/IP:Connection was closed by peer (-148) (128.1.1.204/1500)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 377 …… スレッド ID (MRB の内部コード)。これは、他のログ (Mgrb.ini または Mgreq.ini ファイルと同じように) と同期してデバッグの開始点として使用できます。 • (128.1.1.204/1500) …… 接続がリセットされたモジュール。 <ul style="list-style-type: none"> • 問題のモジュールがアプリケーションサーバの場合、スタートアップの間、登録されるように、そのアドレスは上記の例のように指定されます。 • 問題のモジュールがリクエストの場合、ホスト PC の IIS が何かの理由でクラッシュしたため、アドレスは表示されません。 <p>接続がクローズされた相手は、リクエストかアプリケーションサーバである可能性があります。</p> <p>重要事項： エラー -148 は、回復可能なエラーです。</p> <p>MRB はリクエストをエラーを報告したアプリケーションサーバに割り当て続けます。そして、リクエストが終了すると、アプリケーションサーバは MRB との接続を復旧させることができます。</p> <p>このエラーの重要性は、それが TCP/IP スタックの低レベルのエラーを表示するということです。そして、それはアプリケーションサーバとリクエストの間で他のエラー (例えば .107) を引き起こすかもしれません。</p>
-149	RQTCP_ERR_OUT_OF_SOCKETS	<p>現在のモジュールは、ソケットの最大オープン数 (デフォルトは 1000 です) 達しました。Mgreq.ini ファイルの中でキーワード Handles=NNNN を使用してこの値を増やしてください。</p>
-150	RQMRG_ERR_CNCT_REFUSED_MRB	<p>アプリケーションサーバが MRB と接続できませんでした。</p> <p>MRB が起動されているかどうかを確認してください。また、Magic.ini ファイル内の MessagingServer キーワードのホスト名に正しい IP アドレスが設定されているかどうかを確認してください。アプリケーションサーバのディレクトリ内にある Mgreq.ini 内の Log パラメータを有効にすることで問題を追跡することができます。</p>

エラー#	ニモニック	対応
-151	RQMRG_ERR_CNCT_CLOSED_BY_REQ	<p>リクエストの実行中に、リクエストがステータス -110(REQUESTER_TIMEOUT) を受け取ってクローズされました。</p> <p>結果として、アプリケーションサーバからは、出力結果がリクエストに返されませんでした。クライアント PC とアプリケーションサーバ間でのリクエストを確認してください。可能であれば、リクエストとアプリケーションサーバのディレクトリ内にある Mgreg.ini ファイルの Log パラメータを有効にして問題を再現してみてください。</p> <p>これは内部ステータスコードです。ステータス -110 も一緒に発行され、クライアント側で対応すべき問題です。(ステータス -110 を参照してください)</p>
-156	RQMRG_ERR_OUT_OF_SEQ_MSG	<p>クライアントとサーバ間のセッションは、すでに同期されていません。</p> <p>クライアントを処理しているコンテキストが、予期しないセッションカウンターを含むクライアントからイベントを受け取りました。(クライアントからの各リクエストは、前のセッションカウンター+1 と等しいセッションカウンターを持たなければなりません)。</p> <p>可能であれば、リクエストとアプリケーションサーバのディレクトリ内にある Mgreg.ini ファイルの Log パラメータを有効にして問題を再現してみてください。</p>
157	RQMRG_ERR_AUTHENTICATION	<p>未登録のユーザ ID や間違ったパスワードなどが原因で、クライアントから送られる証明書は、サーバで認証できませんでした。</p>
-160	RQSPAWN_ERR_EXE_NOT_FOUND	<p>通常 MRB によって実行される実行可能ファイルと関連したステータスコードです。実行可能ファイルの名前が正しくないか、ファイルが破損しているか、ユーザ ID やパスワードが間違っているかもしれません。</p>
-161	RQSPAWN_ERR_PATH_NOT_FOUND	
-162	RQSPAWN_ERR_BAD_EXE	
-163	RQSPAWN_ERR_BAD_LOGIN	
-164	RQSPAWN_ERR_PRIVILEGE_NOT_HELD	
-165	RQSPAWN_ERR_ARG_BIG	
-166	RQSPAWN_ERR_MODE_EINVAL	
-167	RQSPAWN_ERR_NOMEM	
-168	RQSPAWN_ERR_NOPROCESS	
-169	RQSPAWN_ERR_NET_UNREACHABLE	
-170	MM_ERR_INV_SEG	<p>MRB の処理中でのみ関連しているメモリーテーブルのステータスコードです。</p>
-171	MM_ERR_DUPLICATE	
-172	MM_ERR_INV_OPER	
-173	MM_ERR_INV_POS	
-174	MM_ERR_NO_INIT	
-175	MM_ERR_TARGET_EXISTS	
-176	MM_ERR_OUT_OF_HDLS	
-177	MM_ERR_KEY_DISABLED	
-180	RQMREB_WRN_EXE_NOT_FOUND	<p>[MRB_EXECUTABLES_LIST] に定義されていない実行オプションが、MRB に要求されました。</p>
-181	RQMREB_WRN_RT_NOT_FOUND	<p>(ホスト名やポート番号が) 登録されていないエンジンに対する処理要求が MRB に送られました。(例えば、エンジンの終了など)</p> <p>可能ならば、Mgrb.ini ファイル内の Log パラメータを有効にして問題を再現してください。</p>

エラー #	ニモニック	対応
-182	RQMRB_WRN_REQ_NOT_FOUND	MRB は、不明のリクエストによる処理の実行が要求されました。(例えば、プライオリティの変更など) 可能ならば、Mgrb.ini ファイル内の Log パラメータを有効にして問題を再現してください。
-183	RQMRB_WRN_REQ_NOT_MATCH	MRB は、リクエストのアプリケーション名と合っていないリクエスト上の処理実行を要求されました。 可能ならば、Mgrb.ini ファイル内の Log パラメータを有効にして問題を再現してください。
-184	RQMRB_ERR_INI_NOT_PROTECTED	古いステータスコードです。
-185	RQMRB_ERR_REGISTER_SERVICE	MRB は、サービスの初期設定に失敗しました。 Mgrb.ini ファイル内の Log パラメータを有効にして問題を再現してください。
-186	RQMRB_ERR_REPORT_SERVICE_STATUS	MRB は、サービスの初期設定に失敗しました。 Mgrb.ini ファイル内の Log パラメータを有効にして問題を再現してください。
-187	RQMRB_ERR_CNCT_REFUSED_REMOTE_MRB	MRB は、[MRB_REMOTE_EXECUTABLES_LIST] に定義されたリモート実行モジュールの起動のための接続処理に失敗しました。 リモートの MRB のアドレス (ホスト名 / ポート番号) や、接続できることを確認してください。
-197	RQMRB_ERR_CTX_NOT_FOUND	コンテキストが見つかりませんでした。テストケース : -197: Context Not Found を参照してください。
-198	RQMRB_ERR_QUE_LIMIT	キューの上限に達しました。Mgrb.ini ファイル内の QueueMaxSize の値を増やしてください。
-200	RQ_ERR_UNEXPECTED	予期しないエラーです。 他のエラーコードが伴う場合は、そちらのエラーの解決処理を行ってください。
-201	RQ_ERR_NOT_INITIALIZED	パーティショニングエラーです。TCP/IP サービスがインストールされていない可能性があります。
-202	RQFIO_ERR_OPEN_RESULT_FILE	リクエストは、出力結果をファイルに書き出すように要求しました。[コールリモート] 処理コマンドの [コール特性] で指定したり、Mgreq.ini 内のキーワードを指定したり、コマンドラインリクエストのパラメータで指定します。その際のファイル名に間違いがあります。
-203	RQLIB_ERR_INI_FILE	INI ファイルがオープンできませんでした。
-204	RQCMDL_ERR_BAD_ARGS	コマンドラインリクエストは、そのパラメータを解析することができませんでした。コマンドラインリクエストのヘルプを参照してください。
-205	RQ_ERR_WRONG_MSG_SRVR	処理要求がサポートされないミドルウェアに要求されました。例えば EJB からエンジンの起動要求が発行された場合。
-210	RQMRILOW_ERR_RECV_FAIL	クライアントからのメッセージを受信する間に、内部エラーを受け取りました。 可能ならば、Mgreq.ini ファイル内の Log パラメータを有効にして問題を再現してください。
-211	RQMRILOW_ERR_NOT_MRI	クライアントからのメッセージを受信する間に、内部エラーを受け取りました。 <ul style="list-style-type: none"> • 要因 #1 : 相手は、Magic xpa モジュールではありませんでした。メッセージは、別の TCP/IP モジュール (例えば Internet Explorer) から送られた可能性があります。 • 要因 #2 : Mgreq.ini の EncryptedCommunication が設定されていないか、キーワードに対応しない値が設定されている可能性があります。

エラー #	ニモニック	対応
-212	RQMRILOW_ERR_OLD_MRI	クライアントからのメッセージを受信する間に、内部エラーを受け取りました。 クライアントは、旧バージョンのモジュールです。 可能ならば、Mgreq.ini ファイル内の Log パラメータを有効にして問題を再現してください。 応答するモジュールが、ローカルモジュールと同じバージョンであることを確認してください。
-260	RQHTTP_ERR_UPLOAD_TOO_BIG	ブラウザからリクエストにアップロードされたファイルのサイズが上限をを超えました。Scripts ディレクトリ内の Mgreq.ini ファイルの MaxUploadKB の値を増やしてください。
-261	RQMRI_ERR_PRG_NOT_EXTERNAL	プログラムの [外部] 特性が有効になっていません。
-270	RQMRI_ERR_LIMITED_LICENSE	ライセンス制限—現在のリクエスト・タイプは利用できません。シングルユーザ版は、ブラウザクライアント・プログラムを利用できません。
-272	RQMRI_ERR_CANNOT_EXECUTE_OFFLINE_RC_IN_ONLINE_MODE	オフラインモードで開始されたアプリケーションは、オンラインモードで実行しているサーバにアクセスすることができません。
-274	RQMRI_ERR_CANNOT_EXECUTE_RC_WITH_ONLINE_MDI	オンライン MDI でオープンされている場合、リッチクライアントのリクエストは処理することができません。
-275	RQMRI_ERR_INCOMPATIBLE_RIACLIENT	RIA クライアントのバージョンとサーバ側のバージョンに互換性がありません。
-280	ERR_WRONG_SERVER_OR_SERVICE_NAME	無効なサーバまたはサービス名。クライアントエンジンは、(動作環境で設定されている) 無効なサーバまたはサービスに対し [コールリモート] を実行することができませんでした。
-281	ERR_FAILED_TO_CONNECT_SPACE	スペースへの接続に失敗しました。必要なスペースに接続できないため、クライアントエンジンは [コールリモート] を実行することができませんでした。
-282	ERR_NO_RESPONSE	リクエストは、スペースからの応答を受け取ることなくタイムアウトになりました。クライアントはリクエストをスペースに送り (例、[コールリモート] により)、(Magic xpa サーバにより) 適合しない反応がスペースに送られました。

5 付録 II - DB エラー

「Mgrqcmdl -query=log」コマンドを実行した場合、DB エラーや警告、または情報コードが戻る場合があります。

エラー #	ニモニック	意味
1	DB_ERR_REC_LOCKED	レコードがロックされています。
2	DB_ERR_DUP_KEY	インデックスが重複しています。
3	DB_ERR_CONSTR_FAIL	制約違反です。
4	DB_ERR_TRIGGER_FAIL	トリガに失敗しました
5	DB_ERR_REC_UPDATED	レコードが更新されました。
6	DB_ERR_NO_ROWS_AFFECTED	レコードが他のユーザによって更新されていました。
7	DB_ERR_UPDATE_FAIL	レコードの更新に失敗しました。
9	DB_ERR_EXEC_SQL	SQL コマンドの実行に失敗しました。
10	DB_ERR_BAD_SQL_CMD	不当な SQL コマンドです。
11	DB_ERR_BADINI	データベースの初期化に失敗しました。
12	DB_ERR_BADNAME	不当なテーブル名です。
13	DB_ERR_DAMAGED	テーブルが破損しています。
15	DB_ERR_BADOPEN	テーブルがオープンできませんでした。
16	DB_ERR_BADCLOSE	テーブルのクローズに失敗しました。
17	DB_ERR_RSRC_LOCKED	データベースのロック待ちです。

エラー#	ニーモニック	意味
18	DB_ERR_REC_LOCKED_NOBUF	ロック行の書き込み待ちです。
19	DB_ERR_NODEF	データベース定義が読み込まれませんでした。
20	DB_ERR_REC_LOCKED_NOW	レコードがロックされています。
23	DB_ERR_READONLY	読込専用テーブルを更新しようとしてしました。
25	DB_ERR_CAPACITY	デモライセンス使用時のみ有効です。
26	DB_ERR_TRANS_COMMIT	トランザクションのコミットに失敗しました。
27	DB_ERR_TRANS_OPEN	トランザクションの開始に失敗しました。
28	DB_ERR_TRANS_ABORT	トランザクションのロールバック処理に失敗しました。
29	DB_ERR_BADDEF	定義が合っていません。
30	DB_ERR_INVALID_OWNR	テーブルへのアクセスキーが正しくありません。
31	DB_ERR_CLR_OWNR_FAIL	アクセスキーの削除に失敗しました。
32	DB_ERR_ALTER_TBL	データベースがテーブルの変更に失敗しました。
33	DB_ERR_SORT_TBL	データベースがテーブルのソートに失敗しました。
34	DB_ERR_CANNOT_REMOVE	テーブルが削除できませんでした。
35	DB_ERR_CANNOT_RENAME	テーブルのリネームができませんでした。
37	DB_ERR_TARGET_FILE_EXIST	テーブルの作成に失敗しました。このテーブルはすでに存在しています。
38	DB_ERR_FILE_IS_VIEW	テーブルはビューです。
39	DB_ERR_CANNOT_COPY	ビューの作成、削除、コピーができません。
40	DB_ERR_STOP	SQL コマンド実行中のエラーです。
41	DB_ERR_STR_BAD_NAME	テーブル名が不正です。
43	DB_ERR_BAD_QRY	iSeries : 不正なオープン Query 式です。
46	DB_WRN_CACHE_TOO_BIG	メモリが足りません。テーブルキャッシュが開始されませんでした。
47	DB_ERR_LOSTREC	レコードが失われました。
48	DB_ERR_FILE_LOCKED	テーブルのロックができませんでした。
49	DB_ERR_MAX_CONN_EX	最大接続数を超えました。
50	DB_ERR_DEADLOCK	デッドロックです。
51	DB_ERR_BADCREATE	登録エラーです。
52	DB_ERR_FIL_NOT_EXIST	テーブルが存在していません。
54	DB_ERR_IDX_CREATE_FAIL	テーブルインデックスが作成できませんでした。
55	DB_ERR_CONNECT_FAIL	データベースへの接続ができませんでした。
56	DB_ERR_FATAL	未知の致命的エラーです。
57	DB_ERR_INSERT_FAIL	レコードを挿入できませんでした。
58	DB_ERR_DELETE_FAIL	レコードを削除できませんでした。
60	DB_ERR_NOREC	テーブルにレコードがありません。
61	DB_ERR_NOT_EXIST	テーブルが存在していません。
62	DB_ERR_GET_USR_PWD	データベースのパスワードが正しくありません。
64	DB_ERR_NOTSUPPORT_FUNC	iSeries : Magic Where 句の式がサポートされていません。

6 付録 III - Winsock エラー

以下のエラーが表示されるような場合は、MSJに報告してください。

リクエストと Web ブラウザ間で発生するエラーとして、10054 (接続がリセットされた) があります。これは、リクエストの処理中に Web ブラウザがクローズされた時に発生します。このような場合は、エラーとは言い難く、無視できます。

エラー#	ニーモニック	意味
0	WSABASEERR	正常 (エラーではありません)
1004	WSAEINTR	システムコールの割り込みが発生しました。

エラー #	ニーモニック	意味
10009	WSAEBADF	無効なファイルハンドルです。
10013	WSAEACCES	アクセスが拒否されました。
10014	WSAEFAULT	無効なバッファアドレスです。
10022	WSAEINVAL	無効なパラメータです。
10024	WSAEMFILE	使用中のソケットの数が多すぎます。
10035	WSAEWOULDBLOCK	処理はブロックされます。
10036	WSAEINPROGRESS	すでにブロッキング手続きが実行されています。
10037	WSAEALREADY	世窮された処理がすでに実行中（実行済）です。
10038	WSAENOTSOCK	指定されたソケットが無効です。
10039	WSAEDESTADDRREQ	処理の実行には送信先アドレスが必要です。
10040	WSAEMSGSIZE	メッセージが大きすぎます。
10041	WSAEPROTOTYPE	ソケットは要求されたプロトコルと合っていません。
10042	WSAENOPROTOOPT	不正なプロトコルオプションです。
10043	WSAEPROTONOSUPPORT	プロトコルがサポートされていません。
10044	WSAESOCKTNOSUPPORT	指定されたソケットタイプはサポートされていません。
10045	WSAEOPNOTSUPP	指定された処理は、サポートされていません。
10046	WSAEPFNOSUPPORT	プロトコルファミリがサポートされていません。
10047	WSAEAFNOSUPPORT	アドレスファミリがサポートされていません。
10048	WSAEADDRINUSE	アドレスは既に使用中です。
10049	WSAEADDRNOTAVAIL	無効なネットワークアドレスです。
10050	WSAENETDOWN	ネットワークがダウンしています。
10051	WSAENETUNREACH	ネットワークに到達できません。
10052	WSAENETRESET	ネットワーク接続が破棄されました。
10053	WSAECONNABORTED	ネットワーク接続が破棄されました。
10054	WSAECONNRESET	ネットワーク接続が相手によって破棄されました。
10055	WSAENOBUFS	バッファが不足しています。
10056	WSAEISCONN	ソケットは既に接続しています。
10057	WSAENOTCONN	ソケットは接続されていません。
10058	WSAESHUTDOWN	ソケットはシャットダウンされています。
10059	WSAETOOMANYREFS	参照の数が多すぎます。
10060	WSAETIMEDOUT	接続要求がタイムアウトしました。
10061	WSAECONNREFUSED	接続が拒否されました。
10062	WSAELOOP	シンボリックリンクのレベルが大きすぎます（ループしています）。
10063	WSAENAMETOOLONG	ファイル名が長すぎます。
10064	WSAEHOSTDOWN	ホストがダウンしています。
10065	WSAEHOSTUNREACH	ホストへの経路がありません。
10066	WSAENOTEMPTY	ディレクトリが空ではありません。
10067	WSAEPROCLIM	プロセスの処理が多すぎます。
10068	WSAEUSERS	ユーザ数が多すぎます。
10069	WSAEDQUOT	ディスクの割り当てが超過しています。
10070	WSAESTALE	廃止された処理（NFS ファイル処理）を実行しようとしています。
10071	WSAEREMOTE	パス内のリモートレベルが多すぎます。
10091	WSASYSNOTREADY	ネットワークサブシステムが利用できません。
10092	WSAVERNOTSUPPORTED	WINSOCK DLL のバージョンが範囲外です。
10093	WSANOTINITIALISED	Winsock システムが初期化されていません。
11001	WSAHOST_NOT_FOUND	ホストが見つかりません。

エラー #	ニーマニック	意味
11002	WSATRY_AGAIN	指定されたホストが見つかりません。
11003	WSANO_RECOVERY	回復不可能なエラーが発生しました。
11004*	WSANO_DATA	要求されたタイプのデータレコーダが見つかりません。
11004*	WSANO_ADDRESS	アドレスがありません。MX レコードを探してください。

7 付録 IV - テストケース

-144: Low-level connection reset

リクエストまたはアプリケーションサーバから MRB までの接続がリセットされた場合、mrb_event.log には以下のフォーマットでエラーが記録されます。

```
1092 23:29:54,03534 01/05/2002 Error: "TCP/IP error: Connection reset" (-144) (server2/1501)
```

- 1092 …… スレッド ID (MRB の内部コード)。これは、Mgrb.ini または Mgregq.ini ファイルなどで指定される他のログの内容と同期化するためのデバッグの開始点として使用されます。
- (サーバー 2/1501) …… 接続がリセットされたモジュールです。問題の多いモジュールがアプリケーションサーバである場合、アプリケーションサーバの起動時に記録されるため、これはアプリケーションサーバのアドレスとなります。問題の多いモジュールが、インターネットリクエストの場合 (IIS が何らかの理由で処理に失敗した場合) は、アドレスは記録されません。

対応

問題の多いモジュールがアプリケーションサーバのある場合

- 最初にタスクマネージャを起動します。
- アプリケーションサーバがタスクマネージャに表示されていない場合、ログを調べてアプリケーションサーバの問題を更に調べる必要があります。MRB の履歴ログ (Mgrqcmdl -query=log または、Broker モニタによって取得されたログ) は、アプリケーションサーバが異常終了した場合に、どのプログラムを実行していたかを特定するために使用できます。
- アプリケーションサーバがタスクマネージャに表示されている場合、問題は、アプリケーションサーバからリセットされた接続を MRB が間違えて受け取ってしまった、パーティショニングでの TCP/IP の不具合と思われる場合があります。このような場合、Mgregq.ini ファイルで指定されたログファイルは、クライアントとサーバの両方からデバッグするための開始点を提供します。

注意: mrb_event.log に加えて、アプリケーションサーバがリクエスト実行中に異常終了した場合、リクエストはエラー -107 を受け取ります。

-197: Context Not Found

ブラウザクライアントによって送信されたコンテキスト ID は、アプリケーションサーバ内には存在していません。

ブラウザクライアントのセッションが開始される場合は常に、アプリケーションサーバはそのセッション中にユニークなコンテキスト ID を作成します。このコンテキスト ID は、以降のリクエストをブラウザクライアントからアプリケーションサーバにリンクします。

Magic.ini ファイル内の ContextInactivityTimeout パラメータで指定された値に基づいて、アプリケーションサーバはコンテキストを保持し続けます。このタイムアウト値は、最後に受けたリクエスト以降の時間を計測し、この値がタイムアウト値より大きい場合、リクエストはタイムアウトとなります。

ブラウザクライアントとアプリケーションサーバ間でセッションに影響するかもしれない別の環境パラメータには、ContextUnloadTimeout があります。

対応

状況 #1

ブラウザクライアントのセッション間に、ContextInactivityTimeout によって設定された値より長い時間エンドユーザはアプリケーションサーバとのやり取りを行わなかった場合。

対応策：

この環境設定値を少しずつ増やしてみてください。値を大きく設定すると、アプリケーションサーバがより長時間、多くのコンテキストをオープンし続けることとなります。これによって、利用可能なリソースが足りなくなるような影響がでる場合があります。

ContextInactivityTimeout の設定が 1/10 秒単位であり、デフォルトが 600（1 分）であることを覚えておいてください。

状況 #2:

コンテキストが期限切れになった後に、コンテキスト ID を含んだ URL でアクセスされた場合。

対応策：

URL は、ブラウザベースのセッションを開始するプログラムをアクセスするようにしてください。

例：appname=myapp&prgname=myprg.

状況 #3

ブラウザクライアントのセッションを実行している間に、エンドユーザが別の URL を指定し、その後、Internet Explorer の「戻る」機能を使用して、ContextUnloadTimeout が期限切れになった Magic xpa のブラウザセッションに戻ろうとした場合。

対応策：この環境設定値を少しずつ大きくしてみてください。値を大きく設定すると、アプリケーションサーバがより長時間、多くのコンテキストをオープンし続けることとなります。これによって、利用可能なリソースが足りなくなるような影響がでる場合があります。

ContextUnloadTimeout の設定が 1/10 秒単位であり、デフォルトが 1200（2 分）であることを覚えておいてください

このタイムアウト値は、開発モード時は 1/10 秒に制限されることを覚えておいてください。F7 キーで起動されたブラウザプログラムをアンロードした場合はいつでも、ブラウザがクローズされたり、別の URL に切り換えられて、再び開発モードに戻ることを意味しています。